



Title	中世における埋葬姿勢：西日本の事例を中心に
Author(s)	西本, 沙織
Citation	待兼山考古学論集. 2025, 4, p. 737-749
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105085
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中世における埋葬姿勢

—西日本の事例を中心に—

西 本 沙 織

はじめに

日本中世における葬送墓制研究は、中世遺跡の調査数の増加や中世墓資料集成の完成などを契機に近年飛躍的に進展している。一方で遺跡の性質上、地表の石造物と地下の埋葬施設の研究が個別に進んできたことから課題も多い分野である。今回テーマとした中世の埋葬姿勢は、古代からの流れで伸展葬から屈葬へという大きな流れは指摘されているものの、集成や具体的な検討は十分になされてこなかった。そこで本論では他時代の研究を参考に西日本の中世墓の埋葬姿勢を分析し、その変遷と歴史的背景に言及したい。

1. 研 究 史

中世墓研究ではその立地や構成、被葬者、階層、葬法、石造物など様々な視点からアプローチがなされてきた。中でも土葬と火葬は当時選択的な葬法であったということは文献資料からも示されている（細川 1987 ほか）。また、土葬は火葬に比べ費用の安い薄葬とも考えられているが、時期や地域、階層差にも影響され一元的に規定は出来ないと考えられる。

葬法に関して、白石太一郎は 15 世紀の奈良県宇陀地方の土葬墓では西向きの側臥屈葬という埋葬法が成立していたと指摘する（白石 1993）。一方で、太田三喜は近畿地方の中世墓の多様性から葬法は一定ではないと指摘する（太田 1997）。海邊博史は讃岐の土葬墓を分析し、埋葬姿勢の差異が時期差に起因する可能性を示唆している（海邊 2002）。また、神奈川県由比ヶ浜遺跡や山口県吉母浜遺跡では中世墓の人骨が良好に残存しており、埋葬方法や姿勢の検討に加えて医学的知見から被葬者の性別や年齢、身長や病変についての分析が行われている。

このように、中世の埋葬姿勢は個別に触れられることはあったが、全国的な変遷や地域差に関する検討は十分に行われてこなかった。埋葬姿勢は墓の立地や規模、副葬品と同様に葬送を行う側が選択的に付加できる属性といえ、当時の死生観や集団の出自などを復元する際に重要な視点といえる。

一方で、他時代の埋葬姿勢の研究史は古く、その先駆けともいえる清野謙次の研究は岡山県

津雲貝塚の人骨の埋葬姿勢を上肢、腰、下肢の屈曲角度によって示した画期的なものである（清野 1920）。これ以降、埋葬姿勢には身体の屈伸状況を表す主観的な「屈葬」、「屈肢葬」、「伸展葬」という用語に加えて、これらをより詳しく説明する際の「強い（弱い）屈肢」などの表現が使用されてきた。しかし、これらの用語では四肢のどの部分がどの程度屈曲させられているのかが不明瞭であったため、原始古代の埋葬姿勢を具体的に数値で示し、その変遷をたどろうと試みたのが福永伸哉の研究である。福永は清野の分類をうけて近畿地方の縄文から古墳時代の埋葬姿勢の変遷をとらえ、埋葬姿勢に対する共通観念の存在や弥生時代の伸展葬化と渡来集団の関わりについて言及した（福永 1990）。また、縄文時代については山田康弘が埋葬姿勢の地域性とその変遷過程を分析し、被葬者の属性について検討しているほか、弥生時代の埋葬姿勢については乗安和二三や本間元樹らの研究もある（乗安 1993、山田 2001、本間 2004 など）。

2. 埋葬姿勢の変遷

（1）分析対象

沖縄県を除く西日本の古代末から中世における土葬墓の出土人骨のうち、全身骨が比較的良好に残存し埋葬姿勢が確認できる事例で、かつ副葬品や遺構の切り合い関係から時期のわかる事例を今回の分析対象とする。

膝屈曲度の分類

分類	A	B	C	D	E
屈曲角度	45度未満	45度以上 90度未満	90度以上 135度未満	135度以上 160度未満	160度以上

肘屈曲度の分類

分類	1	2	3	4
屈曲角度	45度未満	45度以上 90度未満	90度以上 135度未満	135度以上

腰屈曲度の分類

分類	－	±	＋
屈曲角度	60度未満	60度以上 120度未満	120度以上

図1 埋葬姿勢の分類

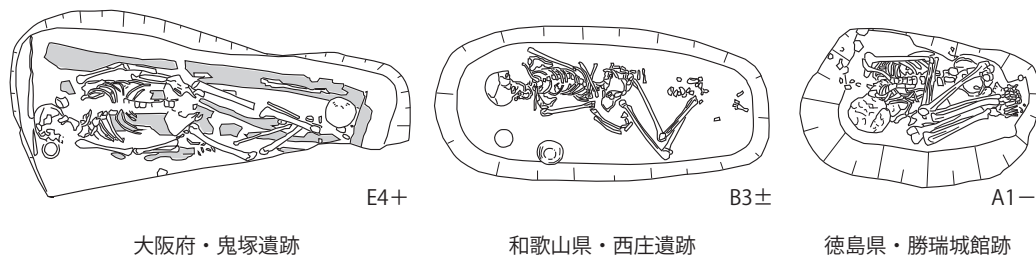


図2 埋葬姿勢の分類例

表1 西日本の中世墓埋葬姿勢一覧（1）

都道府県	遺跡名	遺構名	墓壇形態	埋葬姿勢 角度(膝・肘・腰)	墓壇規模 (m)	年代	体の向き	頭位	顔	性別	年代
滋賀県	大通寺古墳群	墓SX 3	隅丸長方形	E 4 +	2.07 1.1	11C 後半	仰?	北東			
奈良県	能峠遺跡群	8 B 号墓	楕円形	A 1 -	1.55 1.2	15C 中頃～16C 中頃		東	西	男	成人
	能峠遺跡群	23 号墓	楕円形	A 4 +	1.4 0.6	15C 中頃～16C 中頃	伏	西		女	18～20 歳
	小曽根遺跡 15 次	木棺墓	隅丸長方形	C 3 +	2.1 0.66	11C 後半	仰	東		女	成人
大阪府	上津島南遺跡	SX 0 2	隅丸長方形	A ±	1.72 0.68	12C 後半		北	東		
	津堂遺跡	土壇墓	楕円形	A 1 ±	1.3 1	13C 前半	側	北	東	女	成人
	日置荘遺跡	土坑 I-558	隅丸長方形	A 1 ±	1.29 0.75	13～14C	仰?	北			
	水走遺跡 2 次	土壇墓	隅丸長方形	A 1 +	1.27 0.63	13C 前半		東	北	男	成人
	西ノ辻遺跡第 9 次	木棺墓 1	隅丸長方形	A 3 +	1.13 0.65	13C 前半	仰	北	東	女	40 代
	西ノ辻遺跡第 9 次	木棺墓 2	隅丸長方形	A 1 +	1.17 0.6	12C 後半～13C 初頭	仰	北	西	男	40 代
	西ノ辻遺跡第 22 次	木棺墓	隅丸長方形	A 1 -	0.8 0.6	14C 前半		北	東	女	成人
	鬼塚遺跡 13 次	土壇墓 1	半隅丸方形	A 1 ±	0.83 0.66	12C 後半	側	北	西		小児
	鬼塚遺跡 13 次	土壇墓 2	隅丸長方形	E 4 +	1.45 0.6	12C 後半	仰	北			
	鬼塚遺跡 19 次	土壇墓	隅丸長方形	E 4 +	1.9 1	12C 初頭	仰	北	西		
	植附遺跡 1 次	墓 1	隅丸長方形	A 2 ±	1.29 0.47	13C 前半	側	北	西	男	成人
	植附遺跡 15 次	木棺墓	隅丸長方形	A 3 ±	2.3 1.2	13C 後葉	側	北		女	成人
	西庄遺跡	762-SK	隅丸長方形	A 1 ±	1.3 0.8	14C 初～中頃	仰?	北東		男	40 代
	西庄遺跡	763-SK	楕円形	B 4 ±	1.92 0.94	12C 末～13C 初	側	北東	東	女	熟年～老年
和歌山県	西庄遺跡	767-SK	楕円形	B 3 ±	1.64 0.76	14C 初頭	側	北	西	女	10 代後～20 代前
	西庄遺跡	1057-SK	隅丸長方形	A 1 ±	1.2 0.6	13C 後半	側	北	西	女	熟年
	西庄遺跡	1038-SK	隅丸長方形	A 1 ±	1.25 0.8	13C 後半	側	北	東	女	熟年～老年
	太田・黒田遺跡 45 次	SK-36	隅丸長方形	A 1 ±	1.3 1.3	15～16C	側	北東		男	成人
京都府	楠見遺跡	A218 土壇墓	隅丸長方形	A 1 ±	1.35 0.75	12C 末～13C 初頭	側?	北東			
	平安京左京八条二坊十四町 (B 地点)	墓 10	隅丸長方形	E 1 +	2 0.7	14C 中頃	仰	西	南	男	成人
	平安京左京三条三坊十一町	SX54	隅丸長方形	A 1 -	0.75 0.45	15～16C	側	北	東	男	壮年
	平安京左京三条三坊十一町	SX80	隅丸長方形	A 1 -	0.8 0.5	15～16C	側	北	西	男	壮年
	平安京左京三条三坊十一町	SX82	隅丸長方形	A 1 -	0.75 0.5	15～16C	側	北	西	男	壮年
	平安京左京三条三坊十一町	SX90	隅丸長方形	A 1 -	0.8 0.55	15～16C	側	北	西	男	熟年
	平安京左京三条三坊十一町	SX131	隅丸長方形	A 1 -	0.8 0.6	15～16C	側	北	西		若年
	平安京左京三条三坊十一町	SX183	隅丸長方形	A 1 -	0.7 0.5	15～16C	側	北	西	男	壮年
	平安京左京三条三坊十一町	SX311	隅丸長方形	A 1 -	0.8 0.6	15～16C	側	北	西	男	成人
	平安京左京三条三坊十一町	SX312	隅丸長方形	A 1 -	0.65 0.55	15～16C	側	北	西	男	老年
	平安京左京三条三坊十一町	SX319	隅丸長方形	A 1 -	0.65 0.55	15～16C	側	北	西	女	熟年
	平安京左京三条三坊十一町	SX321	円形	A 1 -	0.5 0.5	15～16C	側	北		男	熟年
	平安京左京三条三坊十一町	SX387	円形	A 1 -	0.5 0.5	15～16C	座?			男	熟年
	上京遺跡群相国寺旧境内	ST301	楕円形	A 1 -	0.85 0.5	15C 末～16C 初頭	側?	北東	西		
兵庫県	山田小学校内遺跡	木棺墓 1		A	-	1.7 0.5	13C 前半	側?	北	西	
岡山県	桃山遺跡	土 301	隅丸長方形	E 4 +	2 0.8	11～12C	仰	北西			
	窪木薬師遺跡	土壇墓 - 4	隅丸長方形	A ±	1.3 0.9	12C 前半	側	西	南		
	馬屋遺跡	土壇墓 2	隅丸長方形	A ±	1.43 0.76	12C 後半～13C 前半	仰?	南西		男	壮年
	赤田東遺跡	墓 2	隅丸長方形	E 4 +	1.65 0.39	12C 末	仰	北			
	鹿田遺跡	土壇 -16	楕円形	1 ±	1.75 1.3	12C 末～13C 初頭		西	南	男	40 代半ば
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 2	楕円形	A 1 ±	0.78 0.6	13C 後半	側	北	西	女	成人
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 3	隅丸長方形	A 1 ±	1.44 0.73	13C 後半	仰	東		男	老年
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 5	隅丸長方形	A 1 +	1.91 0.82	13C 後半	側	東		女	成人
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 6	楕円形	A 1 ±	0.95 0.72	13C 後半	側	北	西	女	壮年
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 7	楕円形	A 1 -	0.7 0.58	13C 後半	側	南東			
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 11	隅丸長方形	A 1 ±	1.34 0.8	13C 後半	側	北西			
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 16	隅丸長方形	C 3 +	1.48 0.72	12C 初頭～前半	仰	北東			
	津寺遺跡 (土筆山調査区)	中世墓 18	隅丸長方形	A 1 -	0.95 0.65	13C 後半	側	東			
	津寺遺跡 (丸田調査区)	土壇墓 1	隅丸長方形	D 4 +	1.92 0.8	13C 中頃	仰?	東		男	熟年
	津寺遺跡 (丸田調査区)	土壇墓 4	隅丸長方形	E 4 +	2.03 0.76	12C 後半～13C 前半	仰	東	北		
	津寺遺跡 (丸田調査区)	土壇墓 6	隅丸長方形	A 1 +	1.43 1.09	12C 後半～13C 前半	側	北東		男	
	津寺遺跡 (中屋調査区)	土壇墓 15	隅丸長方形	E 4 +	2.09 0.83	13C 中頃～後半	仰	東			老年
	百間川原尾島遺跡 (三股ヶ・丸田調査区)	土壇墓 1	隅丸長方形	A 1 ±	1.35 1	13C	側	北	西	男	壮年
	百間川原尾島遺跡 (三股ヶ・丸田調査区)	土壇墓 2	隅丸長方形	E 4 +	1.5 0.6	13C 前半	仰	東		男	壮年
	百間川原尾島遺跡 (三股ヶ・丸田調査区)	土壇墓 3	隅丸長方形	A 1 -	1.25 0.72	13C	側	西		男	壮年
	百間川原尾島遺跡 (三股ヶ・丸田調査区)	土壇墓 4	隅丸長方形	E 4 +	2.45 0.8	13C	仰	北		男	壮年
	井手天原遺跡	土壇墓 2	隅丸長方形	A 1 ±	1.55 0.98	13C 前半	側	東	北	男	
	三手向原遺跡	墳墓	楕円形	A 4 +	2.1 1.3	13C ?	?	北西			
	加茂政所遺跡	土壇墓 7	隅丸長方形	A ±	1.05 0.63	13C	側	東	北?		
	北方藪ノ内遺跡	土壇墓 2	隅丸長方形	A 3 +	1.2 0.7	13C ?	仰	東		男	30 歳前後
	高塚遺跡 (フロヤ地区)	土壇墓 2	隅丸長方形	E 4 +	2.09 1.02	13C ?	仰				
	中撫川遺跡	墓 1		A 1 +		13C	側	北	西	女?	
	三須畠田遺跡	土壇墓 2	隅丸長方形	B ±	1.22 0.6	14C 前後	側	北	西		
	中撫川遺跡	墓 2	楕円形	A 1 -	0.86 0.72	16C	側	北	東		12～14 歳?
	足守川矢部南向遺跡	土壇墓 6	楕円形	A	-	1.04 0.7	16C 後半	?			

表 2 西日本の中世墓埋葬姿勢一覧(2)

都道府県	遺跡名	遺構名	墓壇形態	埋葬姿勢 角度(膝-肘-腰)	墓壇規模 (m)	年 代	体の 向き	頭位	顔	性別	年 代
広島県	草戸千軒町遺跡	SX541	隅丸長方形	A 1 ±	1.05 0.7	15C 中頃～16C	側	西	南	男	壮年後～熟年前
	草戸千軒町遺跡	SX1070	楕円形	A 1 -	1.1 0.8	15C 中頃～16C	仰?	北			
	草戸千軒町遺跡	SX185	隅丸長方形	A 1 -	1.45 0.77	15 ～ 16C	側	北	西		
	草戸千軒町遺跡	SX4190	不整形	B 2 ±	1 0.7	16C	側	西	北		小児
	草戸千軒町遺跡	SX2900	隅丸長方形	A 1 -	0.85 0.8	16C	側	北	西	男	壮年
	草戸千軒町遺跡	SX3230	円形	A 1 -	0.9 0.8	15C 中頃	座?	北西	南西		3～4歳
島根県	姫原西遺跡	1号古墳	隅丸長方形	A 1 ±	1.05 0.65	16C 中頃～後半	側	北	西	女	老年
	姫原西遺跡	2号古墳	隅丸長方形	A 1 ±	0.65 0.55	16C 末	側				子ども?
山口県	周防国府跡第26次調査 (1F地区)	ST101	隅丸長方形	B 2 ±	1.25 0.63	12C ?	側				
	高野遺跡(北地区)	ST3003	隅丸長方形	A ±	1.57 0.89	12C	仰	東	北		
	高野遺跡(北地区)	ST3005	隅丸長方形	A ±	1.18 0.7	13C	側	北東	南	男	
	高野遺跡(北地区)	ST3007	隅丸長方形	A ±	1.37 0.8	12C	側?	北東		女	
	高野遺跡(北地区)	ST3008	隅丸長方形	A ±	1.5 0.96	13C	側?	北	西	男	
	高野遺跡(北地区)	ST4001	隅丸長方形	E +	1.66 0.58	12C	仰	北東		女?	
	御堂遺跡	LG001	隅丸長方形	A 1 ±	1.1 0.38	13C 後半	側	北	西	女	熟年
	吉母浜遺跡	LG58	隅丸長方形	A 1 ±	1.35 0.87	13C	側	北	西	男	熟年
	吉母浜遺跡	LG124	隅丸長方形	A 2 +	1.62 0.98	13C 後半	仰	北東	南東	男	熟年
	吉母浜遺跡	LG57	楕円形	A 2 ±	0.96 0.74	15C	側	北	西	男	成人
	吉母浜遺跡	LG97	楕円形	A 2 ±	1.05 0.63	15C	側	北	西	女	熟年
	吉母浜遺跡	LG100	隅丸長方形	A 2 -	1.32 0.9	15C	側	北	東	男	熟年
	吉母浜遺跡	LG101	楕円形	A 1 -	0.88 0.69	15C	側	北	西	女	熟年
	吉母浜遺跡	LG127	楕円形	A 1 -	1.02 0.8	15C	側	北西		女	成人
	吉母浜遺跡	LG128	楕円形	A 1 -	1.06 0.55	15C	仰	北西			小児
	吉母浜遺跡	LG129	楕円形	A 1 -	0.98 0.77	15C	側	北西	南西	男	熟年
	土井ヶ浜遺跡7次	ST709	楕円形	A 1 -	1 0.87	14～15C	側	西	北	女	壮年
	黒川遺跡	BP- 1	隅丸長方形	A 1 -	1.29 0.95	15C ?	側	北	西	男	熟年
	黒川遺跡	BP- 3	隅丸長方形	A ±	1.08 0.76	15C ?	側	北	西		
	高野遺跡(北地区)	ST17001	隅丸長方形	A ±	1.26 0.92	14～15C	側	北	西	男	壮年
香川県	下川津遺跡	ST III 13	楕円形	A 1 ±	1.3 0.5	11～12C	側?	北	東	女	30代
	下川津遺跡	ST III 14	隅丸長方形	A ±	1 0.5	13C	側?	北			
	前田東・中村遺跡	ST03	隅丸長方形	A +	1.28 1.12	12C	側	北	東	男	成人
	池下遺跡	ST01	隅丸長方形	A 2 ±	1.24 0.5	12C 末～13C 初頭	側	北	西		
	奥白方南原遺跡	ST01	隅丸長方形	A ±	1.99 0.93	13C 前半	側?	南西			
	西末則遺跡	ST01	隅丸長方形	A ±	1.55 0.96	13C 前半	側	東	北		
徳島県	花池尻中遺跡	ST01	隅丸長方形	A ±	1.98 0.8	13C 前半	仰?	東			
	古城遺跡	ST1003	隅丸長方形	B 2 ±	1.5 0.8	12C 末～13C 初頭	側?	北	西		
	古城遺跡	ST1004	隅丸長方形	A 1 ±	1.2 0.7	12C 末～13C 初頭	仰?	北	西		
	大松遺跡	SK2059	隅丸長方形	A 2 ±	1.65 1.08	13C	側	北	西	男	成人
	古町遺跡	ST2001	楕円形	A 2 -	1.2 0.62	13C 末～14C	側?	北	西	男	老年
	勝瑞館跡第9次	ST1001	楕円形	A 1 -	1 0.63	16C 後半	側	西	北	女	17～18歳
愛媛県	勝瑞館跡第9次	ST1002	楕円形	A 2 -	1.18 0.73	16C 後半	側	北	西	男	熟年
	平田七反地遺跡	1号土墳墓	隅丸長方形	E 4 +	2.5 1.55	12C 前後	仰	北西		男・女	熟年
	平田七反地遺跡	2号土墳墓	隅丸長方形	E 4 +	1.7 0.9	12C 後半～13C	仰	北西		女	
	平田七反地遺跡	3号土墳墓	隅丸長方形	E 4 +	2.8 1.3	12C 後半～13C	仰	北西	西	女	壮年
	古照遺跡	26号土墳	隅丸長方形	A 1 -	0.8 0.56	15C 末～16C 初頭	側	北西			
	古照遺跡第7次	SK- 6	楕円形	A 1 -	0.84 0.38	14～16C	側	北	西		
	古照遺跡第7次	SK- 8	楕円形	A 1 ±	0.93 0.67	16C	側	北	東		
	北斎院地内遺跡第1次	1号墓	隅丸長方形	B 2 ±	1.22 0.68	15～16C	側	北	西		
	北斎院地内遺跡第1次	2号墓	隅丸長方形	A 2 ±	1.22 0.84	15～16C	側	北	西		

(2) 分類方法

埋葬姿勢は福永伸哉や山田康弘の分類を参考に、以下のように分類する。

膝の屈曲を大腿骨と脛骨・排骨のなす角度で45度未満(「A」)、45～90度未満(「B」)、90～135度未満(「C」)、135～160度未満(「D」)、160～180度未満(「E」)の5段階に、肘の屈曲を上腕骨と尺骨・橈骨のなす角度で45度未満(「1」)、45～90度未満(「2」)、90

表3 西日本の中世墓埋葬姿勢一覧（3）

都道府県	遺跡名	遺構名	墓壇形態	埋葬姿勢 角度（膝・肘・腕）	墓壇規模 (m)	年 代	体の 向き	頭位	顔	性別	年 代
福岡県	博多遺跡群（第1次調査）	19号土壇	隅丸長方形	E 4 +	1.92 0.56	12C 中葉		北東	北西		成人
	博多遺跡群（第26次調査）	木棺墓	隅丸長方形	D 4 +	1.56 0.48	12C 後半		北西	西		成人
	博多遺跡群（第33次調査）	SR-103	楕円形	A 1 -	1.2 0.74	16C以降	側	北	東	女	成人～熟年
	博多遺跡群（第33次調査）	SR-107	楕円形	A 1 ±	1.1 0.49	16C以降	側	東	北	男	成人
	博多遺跡群（第33次調査）	SR-120	楕円形	A 1 +	1.58 0.93	16C以降	仰	西	南	女	成人
	博多遺跡群（第42次調査）	1468号遺構	隅丸長方形	A 3 ±	1.87 1.1	12C 後半	側	北西	南西	男	熟年
	博多遺跡群（第42次調査）	1834号遺構	隅丸長方形	C 2 +	2 0.8	12C 後半	仰	北		男	熟年
	博多遺跡群（第42次調査）	1758号遺構	隅丸長方形	E 4 +	2.2 0.74	11C	仰	南東		男	熟年
	博多遺跡群（第62次調査）	731号遺構		E 4 +		13C 頃	仰	北東		男	成人
	博多遺跡群（第62次調査）	1016号遺構	隅丸長方形	C 1 +	2.52 1.11	12C 中頃	仰	北東		男	成人
	博多遺跡群（第62次調査）	1716号遺構	隅丸長方形	4 +	1	12C 後半	仰	北東		女	成人
	博多遺跡群（第204号遺構）	2204号遺構		E 4 +		12C	仰	北		男	成人
	博多遺跡群（第78次調査）	305号遺構	隅丸長方形	B 1 ±	1.3 0.74	13C 前半	仰	北		男	成人
	博多遺跡群（第78次調査）	306号遺構	隅丸長方形	C 1 +	1.86 0.7	13C 前半	側	北	西	女	成人
	博多遺跡群（第78次調査）	782号遺構	隅丸長方形	A 4 +	1.48 1.16	13C 前半	仰	北東	南西	男	成人
	箱崎遺跡（第21次調査）	SX154	隅丸長方形	A 1 ±	1.3 0.85	12C 中頃	側	北	南西	女	成人
	箱崎遺跡（第21次調査）	SX165	隅丸長方形	A 1 ±	1.55 0.95	12C 中頃	側	南	西		成人
	箱崎遺跡（第21次調査）	SX457	隅丸長方形	E 4 +	2.05 1.1	12C 中頃	仰	南東		男	熟年
	箱崎遺跡（第24次調査）	SX07	隅丸長方形	A 1 ±	2.5 ～ 1.5	12C 中頃	側	北	東		
	箱崎遺跡（第26次調査）	SR-066	隅丸長方形	E? 4 +	1.13	12C 後半	仰	北		男	熟年
	箱崎遺跡（第26次調査）	SX-102	隅丸長方形	A 1 -	1.21 0.75	13C ?	側	北	西	男	成人
	箱崎遺跡（第41次調査）	SK-34		A 1 ±		12C	仰	北		女	熟年
	箱崎遺跡（第41次調査）	SK-35	隅丸長方形	A 1 -	0.94	12C	側	北	西	男	熟年
	箱崎遺跡（第41次調査）	SK-63	隅丸長方形	A 1 -	1.95 1.15	12C 中頃～後半	側	北西	南西	男	熟年
	大宰府史跡1（第38次調査）	SX863	隅丸長方形	C 4 +	2.18 1.08	12C 中頃	側?	北	西	男	成人
	大宰府史跡2（第38次調査）	SX864	隅丸長方形	A 1 -	1.24 0.7	12C 中頃	側	北	西	女	成人
	大宰府条坊跡（第71次調査）	71ST400	隅丸長方形	E 4 +	1.95 0.8	12C 後頃		西			成人
	西屋敷遺跡（第001次調査）	No.368 土壇墓	隅丸長方形	A 1 ±	1.4 0.79	13C	側	北	西		
	西屋敷遺跡（第001次調査）	No.369 土壇墓	隅丸長方形	A 1 -	1.4 1	13C	側	北	西		
	富久遺跡	3号墓	隅丸長方形	A 1 +	1.12 0.5	14C	側	北		女	成人
	富久遺跡	4号墓	楕円形	A 1 +	1.28 0.68	14C		北		女	熟年
佐賀県	森田遺跡3区	木棺墓	隅丸長方形	A 2 +	1.4 0.9	12C末～13C前半	仰	北	東	女	
	みやこ遺跡Ⅱ区	SP203	長方形	A 2 ±	1.31 0.97	室町期	伏	北		男	壮年
長崎県	桜町遺跡	土壇墓1	楕円形	A 2 ±	1.17 0.8	14C ?		北	西	女	20代
大分県	八坂中遺跡	土壇墓8	楕円形	C +	2.4 1.4	11C 後半	仰?	南西			
	八坂中遺跡	土壇墓12	隅丸長方形	C +	2.35 1.05	16Cか?	仰?	西			
	八坂中遺跡	土壇墓13	隅丸長方形	B ±	1.05 0.65	11C 後半	側	北	西		
	八坂中遺跡	土壇墓14	隅丸長方形	C 1 ±	2 1.2	12C 後半	側	北西			
	八坂中遺跡	土壇墓17	隅丸長方形	A 1 -	1.5 1.25	16C	側	北	東		
	八坂中遺跡	周溝墓	隅丸長方形	E 1 +	1.7 0.65	11C 後半	仰	西		女?	
熊本県	阿弥陀堂遺跡	2号人骨		A 1 -		13～14C 中頃	側	北西	西	女	壮年
	阿弥陀堂遺跡	3号人骨		A 1 ±		13～14C 中頃	側	南西	西	女	壮年
	阿弥陀堂遺跡	11号人骨		A 1 -		13～14C 中頃	側	北東	東	男	壮年
	阿弥陀堂遺跡	13号人骨	楕円形	A 2 -	0.7 1	13～14C 中頃	側	北	東	女	熟年
	阿弥陀堂遺跡	15号人骨		A 1 -		13～14C 中頃	側	北	東	女	熟年
	阿弥陀堂遺跡	16号人骨		A 1 -		13～14C 中頃	側	北東	南	女	熟年
	船入遺跡	1号土壇墓	隅丸長方形	A 2 ±	1.5 1.2	14C	側	北	西	男	壮年
	杉谷遺跡	第1号土壇墓	隅丸長方形	A ±	1.54 1	14～15C		北	西	男	熟年
	杉谷遺跡	第2号土壇墓	隅丸長方形	A 2 ±	1.45 0.93	14～15C		北	西	男	熟年

～135度未満（「3」）、135～180度未満（「4」）に分類した。また、椎骨と大腿骨のなす角度で60度未満（「-」）、60～120度未満（「±」）、120～180度未満（「+」）の3段階とした。これらを踏まえ、全身の埋葬姿勢を表す際にはA 1 -やE 4 +のように一括して表記する。身体の左右で屈曲度が異なる事例には強く屈曲した側の段階を採用する。

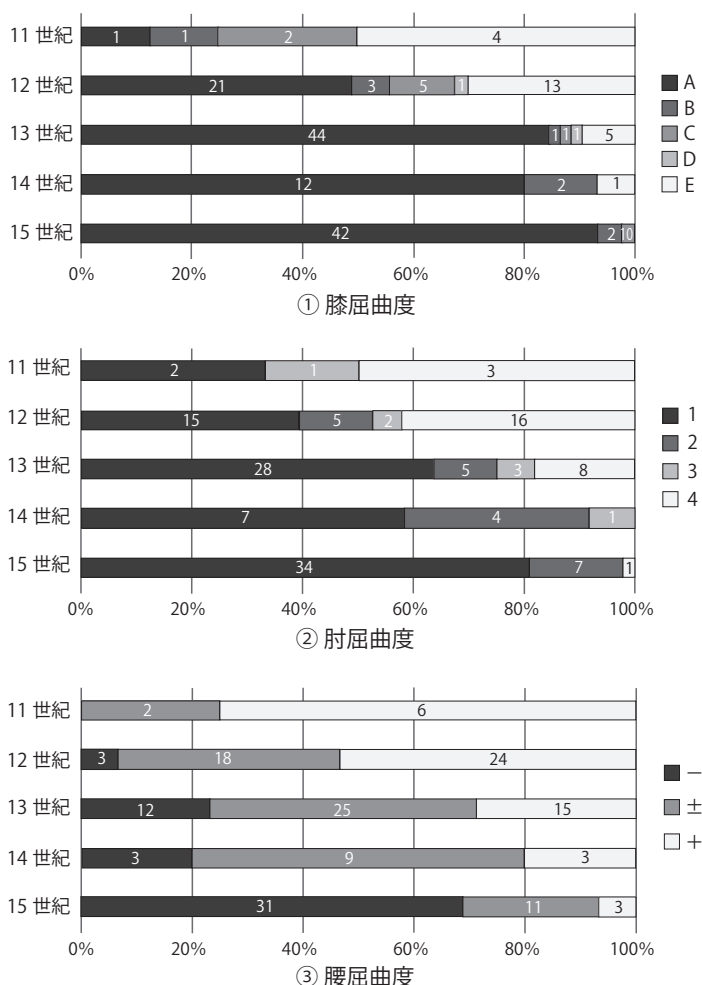


図3 部位ごとの屈曲度の変遷

全体の40%、12世紀には27%、13世紀には10%、14世紀以降は確認できず、時代を経るごとに減少する。また、最も体が屈曲した姿勢を示すA 1-は12世紀までは5%、13世紀には17%、14世紀には20%、15世紀以降は62%と増加傾向にある。

部位ごとの埋葬姿勢の分類では仰向けの「仰臥」、横向きの「側臥(横臥)」、うつ伏せの「伏臥」⁽¹⁾の区別がつかないため、体の向きを示す項目も設けた。全国的には側臥埋葬の初現は11世紀初頭の長野県社宮司遺跡と非常に早いですが、同時期の埋葬事例のほとんどは仰臥伸展葬である。西日本では側臥が増え始めるのは12世紀頃で、13世紀には約7割に、15世紀以降にはほとんどの埋葬が側臥を採用するようになることから、体の向きは仰臥から側臥中心へと変わっていくことがわかる。

(3) 埋葬姿勢の変遷

時期別の埋葬姿勢を、体の部位(膝・肘・腰)ごとの屈曲度でグラフ化した。ここからは伸展葬から屈肢葬、さらに強い屈葬へという大きな流れが概観できる。特に膝に関しては他の部位に比べ屈肢化が早く、12世紀には半数が、13世紀には8割が45度未満という強い屈曲度を示している。肘は13世紀には6割が肘を最もきつく曲げて葬られ、腰は12世紀には約半数が、13世紀には7割が腰を120度未満にまで折り曲げて埋葬されている。

全身の埋葬姿勢では、最も伸展した姿勢を示すE 4+は11世紀には

（４）埋葬姿勢の地域差

①近畿

近畿地方は12世紀までは伸展葬およびそれに近いE 4+やC 3+が9例のうち4例確認できる。これ以降13世紀から一気に屈肢化がはじまるように見えるが、腰屈曲度の変遷からもその萌芽は12世紀後半頃にありそうだ。13世紀の埋葬姿勢の特徴としては腰屈曲度が土のままのものが多くことが挙げられる。膝の屈曲度は、13世紀以降は京都府平安京左京八条二坊十四町の事例を除き、ほとんどがA分類を示す。14世紀以降は膝を抱え込む姿勢のA 1-が19例中14例と目立つが、このうち11例が京都府平安京左京三条三坊十一町の実例であり、41体の人骨がいずれも小さな墓壇に屈葬されていることから境内墓地の可能性も示唆されているほか、庶民的近世墓の初現という指摘もある（百瀬2002）。京都では似た時期に伸展葬の木棺墓や屈葬の土壇墓群がいずれもみられ、都市部における多様な葬法のあり方を示している。

②中国

中国地方では岡山県百間川原尾島遺跡や同・津寺遺跡において13世紀にE 4+の伸展葬が見られる一方、同時期に膝を抱え込む姿勢のA 1±も多い点で近畿地方とは異なり、13世紀まで様々な埋葬姿勢が混在する状況にある。また、腰の屈曲度に関しては中世を通じて土が多く、やや角度が緩いと言える。吉母浜遺跡では強い屈葬を示すA 1-が多く見られ、これはほぼ同時期の岡山県津寺遺跡の様相ともよく似ており、中国地方の13世紀以降の集団墓の埋葬姿勢の特徴を示している可能性がある。百間川原尾島遺跡においては13世紀頃の墓にA 1-とE 4+という屈葬と伸展葬が混在し、これらが屋敷墓であるという点にも注目できる。腰の角度については、緩いものと強く屈曲させたものが混在する。

③四国

四国地方では、12世紀末までは8例中3例がE 4+という伸展葬をとるのに対し、13世紀以降になると膝の屈曲はすべてAおよびBに、腰に関しても土とーのみと、ほぼ屈葬化が完了するようである。また、個別に見ると愛媛県平田七反地遺跡のように12～13世紀にE 4+の伸展葬が見られる一方、香川県池下遺跡と同・下川津遺跡では12世紀にすでに膝の屈曲が強いA 1±の姿勢が見られることは地域差としても注目できる。15、16世紀になると、徳島県勝瑞城館跡遺跡のように完全に膝を抱えた強い屈姿勢であるA 1-のような事例と愛媛県古照遺跡のようにやや腰の角度が緩い事例の両方が見られる。

④九州

九州地方の福岡県博多遺跡および同・箱崎遺跡については、箱崎遺跡で12世紀にすでにA 1-の埋葬姿勢が見られることを除くと、中世前期から後期にかけて伸展から屈葬に変化していく様子が観察できる。しかし、九州全体では13世紀まで膝の角度は定まっておらず、12世紀には特に膝屈曲度にばらつきが見られる。14世紀になると、膝の屈曲度もA段階のものが

増えてくる。また、15 世紀になっても腰の屈曲が近畿地方に比べて緩いことがわかる。中世初期までの事例が博多や大宰府など都市部に限られるため九州全体をひとくくりにすることは難しいが、概観すると九州では 12 世紀代にはいまだ様々な埋葬姿勢が混在する状況にあり、やや遅れて 13 世紀頃に屈葬化が進むと考えられる。

3. 埋葬姿勢と頭位

都出比呂志は古代墳墓における北頭位の優位性を唱え、中世にもその傾向が継続するとした（都出 1986）。また、北枕西面での埋葬は仏の涅槃時の姿勢をさせたものと考えられており、浄土思想の現れとして民俗例などからも説明がなされている。斎藤忠は日本で原始古代から伝統的に見られる北枕と、新たな仏教の影響による西面思想が混融した可能性を示唆する（斎藤 1987）。中世墓に関しては、江浦洋や海邊博史らが北頭位の優位性をとなえている（江浦 1988、海邊 2002）。このように中世には基本的には北頭位が多いものの、南や東西方向に頭位を置くものも少なくない。また屋敷墓の頭位は北よりも屋敷の方位を意識されたものが多いことや、集団墓ごとに共通の埋葬頭位をとる事例、地形や寺院の方角によって頭位を決定していると考えられる事例など、頭位を決定する要因は様々である。

今回分析対象とした事例では、北枕だけでなく、顔を西に向けた姿勢が多く見られる⁽²⁾。時代ごとの割合では、11 世紀までは北枕が 43%、このうち北枕西面のものが 33%（1 例のみ）、以降 12 世紀にはそれぞれ 82%と 42%、13 世紀には 69%と 51%、14 世紀には 87%と 62%、15 世紀以降は 81%と 65%という結果になった。これらの結果から、古代から続く北枕の埋葬は 12 世紀ごろ仏教葬法の普及によって増加し、13～14 世紀の間には北枕西面の埋葬も定着したと言えるだろう。また、仰臥のうち、北枕西面のものは 5 例と少ないが、側臥のうち北枕西面のものは 51 例と半数以上を占める。一方、同一遺跡内で北枕西面と北枕東面が混在することもあり、側臥が北枕西面思想に由来する可能性は高いものの、必ずしも側臥で埋葬した場合に西面させるわけではないようだ。

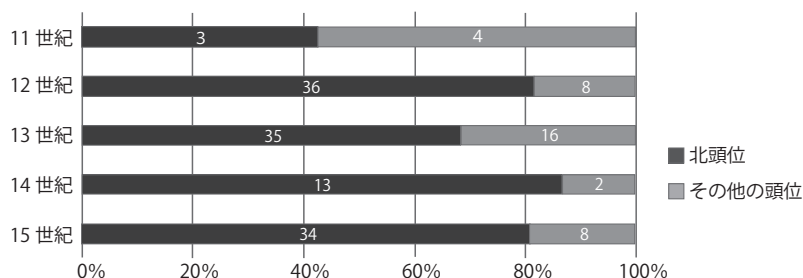


図 4 埋葬頭位の変遷

4. 埋葬姿勢と墓壇

（1）墓壇形態

墓壇形態については隅丸長方形と楕円形、および不整形に分類する。この差は木棺墓か、直葬の土壇墓かを示す可能性があり、研究史からも中世を通じて隅丸長方形から楕円形へという時期的変遷が指摘されている。特に13世紀以降に見られる楕円形土壇は直葬の増加によるものであろう。

（2）墓壇規模

中世前期の土葬墓の墓壇規模はしだいに縮小する傾向があるとされる（橘田 1993）。海邊博士は讃岐の中世墓の墓壇規模と埋葬姿勢の関係を分析し、伸展葬と屈葬で墓壇規模の分布が分かるとしている（海邊 2002）。中世墓の墓壇規模の差は被葬者の性差を示す可能性があるとした研究もある（江浦 1988、瀬戸 2000）。また、山田康弘は縄文時代の墓壇規模が埋葬姿勢・性差・年齢差と密接な関係をもつとし、人骨が出土しなかった土壇墓においても有意な分析が可能であるとしている（山田 2008）。

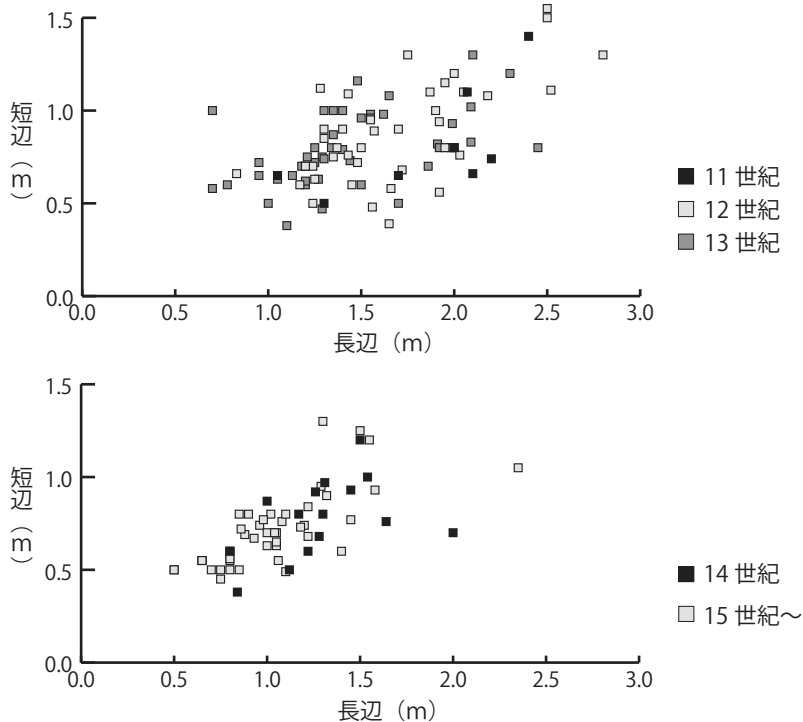


図5 墓壇規模の変遷

今回対象とした埋葬姿勢のうち墓壇形態のわかる 155 例では、13 世紀までは長方形の墓壇が見られるが、14 世紀以降には正方形に近い小型の墓壇が増加する。これは中世後期に強い屈葬が増加することや座棺の出現によるものと考えられる。続いて、墓壇規模と被葬者の性別

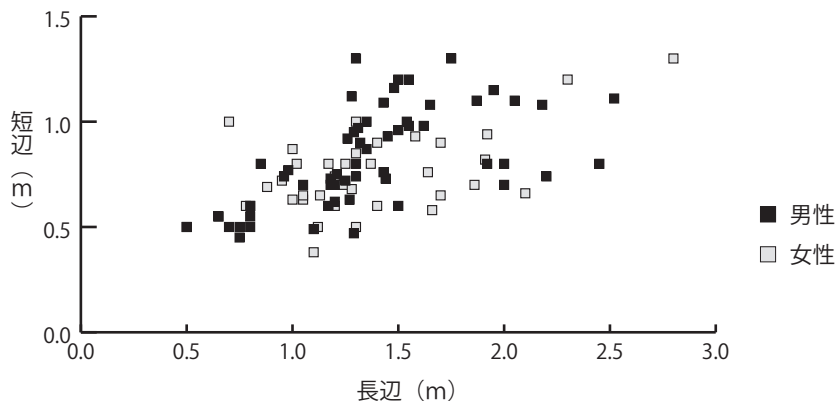


図6 墓壇規模と性差

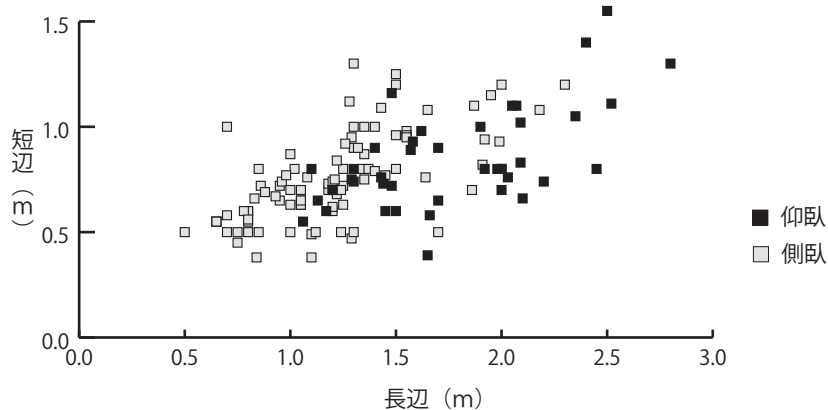


図7 墓壇規模と体の向き

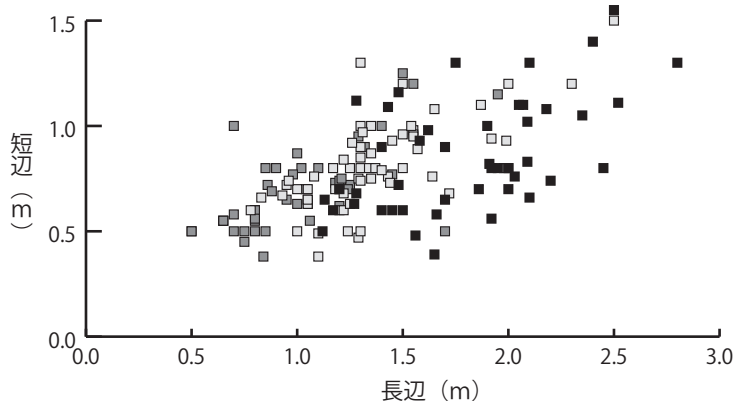


図8 墓壇規模と腰屈曲度

がわかる事例からその相関関係を散布図化したところ、微妙な差は出たものの分布の中心はほぼ同じ場所にまとまることから、中世において被葬者の性差は墓壇の規模に大きく影響を与えるものではなさそうだ⁽³⁾。小児の墓については事例が少ないものの、長辺が1 m前後の小規模なものが多く大人との体格差が墓壇規模に反映されていることがわかる。

また、体の向きと墓壇規模の関連性を検討するため、体の向きと墓壇規模が判明している151例を散布図にしたところ、墓壇の短辺は大きな差が見られない一方で、長辺は仰臥で1.2～2.5 m、側臥で0.6～1.5 mの範囲に分布するという差がでた。次に、埋葬姿勢が墓壇規模に反映されるか否かを検討するため、腰の屈曲度と墓壇規模の関係を散布図化したところ、腰を曲げたーと土の姿勢ではおおよその分布域は同じであったが、腰を伸ばした+の姿勢では長辺の長い分布域を見せた。これによって、中世の墓壇規模は性差より埋葬姿勢により影響されることがわかった。

5. ま と め—埋葬姿勢の変遷とその背景—

国分直一は、吉母浜遺跡において幼児にまで成人と同様の屈姿勢埋葬をとらせる理由として「死霊への恐怖の表れとしての死者への〈厳しい処置〉」や「死霊再生を遮断しようとする種々の呪術」という思想的な背景を挙げた（国分1985）。民俗学者の五来重も、近代まで東北地方などで残っていたという屈葬について「（古代日本人は）足と手を胴部に緊縛してしまえば、死霊は封じ込められて、生者に災いをもたらすことはない」と述べている（五来1992）。12～13世紀に増加する「側臥屈葬」では、両腕が拝むような姿勢をとらされている場合が多く、そのため肘の屈曲度も急に強くなる。先に述べたように、北枕西面思想の普及に加え、合掌の体勢をとらされたということも肘の屈曲化の要因の1つであろう。

屈葬は、死後硬直した遺体の関節を折り曲げること自体には労力を使うが、副葬品の貧弱さや直葬が見られる点などは伸展葬に比べて比較的簡略化されたものと言える。特に、京都など都市の集団墓においてはその簡略化の傾向が著しい。楠元哲夫は中世集団墓地の萌芽を12世紀の都市部に求め、その後14世紀以降造墓階層が下位に波及し、15世紀には造墓が当然の行為となり階層間格差が失われていくとする（楠元1987）。石造物も中世後期には小型規格品が大量生産されるようになり、造墓人口の増加を示している。また、埋葬姿勢と墓壇規模の関係の検討からは、屈葬の採用によって掘る土壌面積は相対的に小さく済むということもわかった。

これらのことから、中世における屈肢を伴う埋葬姿勢の増加要因としては、当時の思想的な背景に加え、都市部の人口増に伴う墓の増加や中世後期の造墓階層の広がりによる埋葬場所の確保、労力および経費の節減が求められるようになったことが考えられる。

その後、近世には座った姿勢で遺体を納める座棺の普及によりさらに小規模な土葬墓が増加

すると考えられるが、中世から近世への移行過程など埋葬姿勢研究を行う上で考えなければならない課題は多い。今回紙面の都合上言及できなかった東日本の様相とも合わせて今後の課題としたい。

謝 辞

本稿は、平成20年度に大阪大学に提出した卒業論文の一部を加筆・修正したものである。卒業論文作成時には、福永伸哉先生、高橋照彦先生、寺前直人先生、研究室の諸先輩方から懇切丁寧なご指導をいただき、特に福永先生には原始古代の埋葬姿勢研究の成果をもとに多くのご助言をいただきました。お世話になった方々に篤く感謝申し上げます。

註

- (1) 伏臥埋葬は事例数の少ない特殊な葬法であり、原始の事例や民俗学の研究からも異常死に際して施される場合や地域的な習俗などの要因が指摘されてきた（本間2004）。
- (2) 頭位に関しては北東・北西も北に、顔の向きは南西・北西も西に含めることとする。
- (3) 中世日本人の平均身長は鎌倉時代には男性が159cm、女性が145cm、室町時代には男性が157cm、女性が147cmと推定されている（平本2004）。

参考文献

- 江浦 洋 1988「中世土壙墓をめぐる諸問題」『日置荘遺跡（その3）』大阪府文化財センター、大阪：pp. 82-93
- 太田三喜 1997「近畿地方における中世の墓制—中世火葬墓の成立と背景—」『宗教と考古学』勉誠社、東京：pp. 335-357
- 海邊博史 2002「讃岐の中世土葬墓ノート」『中世都市鎌倉と死の世界』高志書院、東京：pp. 227-236
- 橘田正徳 1993「中世前期における土葬墓の出土供膳具の様相」『貿易陶磁研究』No. 13 貿易陶磁研究会、神奈川：pp. 21-36
- 清野謙次 1920『備中国浅口郡大島村津雲貝塚人骨報告』京都帝国大学、京都
- 楠元哲夫 1987「中世集団墓地の地域相—都市と田舎—」『同志社大学考古学シリーズⅢ 考古学と地域文化』、京都：pp. 545-564
- 国分直一 1985「吉母浜の中世墓制—特にその葬俗をめぐって—」『吉母浜遺跡』下関市教育委員会、山口：pp. 263-270
- 五来 重 1992『葬と供養』東方出版、大阪
- 斎藤 忠 1987「第二章第二節 仏式葬法の中に見られる固有的な要素」『東アジア葬・墓制の研究』第一書房、東京：pp. 403-416
- 重見高博 2020『史跡勝瑞城館跡Ⅰ—勝瑞館跡西半部の発掘調査』藍住町教育委員会、徳島

- 白石太一郎 1993「奈良県宇陀地方の中世墓地」『国立歴史民俗博物館研究報告』第49集 国立歴史民俗博物館、千葉：pp. 93-130
- 瀬戸哲也 2000「第7章第7節 中近世墓群の墓域と葬法の検討」『栗栖山南墳墓群（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第57集』（財）大阪府文化財調査研究センター、大阪：pp. 265-284
- 都出比呂志 1986「6 墳墓」『岩波講座 日本考古学4 集落と祭祀』岩波書店、東京：pp. 217-267
- 乗安和二三 1993「西日本における弥生人の埋葬姿勢—土井ヶ浜遺跡出土人骨の上肢型を中心として—」『考古論集—潮見浩先生退官記念論文集—』潮見浩先生退官記念事業会、広島：pp. 339-358
- 平本嘉助 2004「江戸時代人の身長と棺の大きさ」『墓と埋葬と江戸時代』吉川弘文館、東京：pp. 201-223
- 富加見泰彦ほか 2003『西庄遺跡』（財）和歌山県文化財センター、和歌山
- 福永伸哉 1990「原始古代埋葬姿勢の研究—近畿地方を中心に—」『日本古代葬制の考古学的研究』大阪大学考古学研究室、大阪：pp. 5-24
- 細川涼一 1987「第二章 大和竹林寺・般若寺・喜光寺の復興」『中世の律宗寺院と民衆』吉川弘文館、東京：pp. 41-82
- 本間元樹 2004「弥生時代の伏臥」『考古論集』河瀬正利先生退官記念事業会、広島：pp. 419-434
- 松田順一郎ほか 2002『鬼塚遺跡 第13次（遺構編）・22次発掘調査報告書』（財）東大阪市文化財協会、大阪
- 百瀬正恒 2002「都市京都における死、浄土とかわら」『中世都市鎌倉と死の世界』高志書院、東京：pp. 99-118
- 山田康弘 2001「縄文人の埋葬姿勢」上・下『古代文化』53-11、12 財団法人古代学協会、京都：pp. 12-31、pp. 17-34
- 山田康弘 2008「第2章 埋葬姿勢と土壌規模」『人骨出土例にみる縄文の墓制と社会』同成社、東京：pp. 49-74

挿図出典

表1～3、図1・3～8：筆者作成

図2：重見2004、松田2002、富加見ほか2003より再トレース